

「女子大生と学ぼう『慰安婦』問題」を読んでみて。

この本を読んで、慰安婦問題をはじめ、靖国問題、沖縄の集団自決、様々な問題をくわしく知ることができて、とても勉強になりました。学校の教科書にのっていないことが、たくさんあり、学校の教科書が全て正しいと思ったら大間違いだと気付きました。私は、日本機関紙出版センターさんと神戸女学院大学 石川康宏ゼミナールの皆様には感謝の気持ちで手紙を書きました。まだ、解決していない慰安婦問題について女子大生、高校生たちが、すごく真剣に考えておられるのを読んで、すごく嬉しかったです。私も「慰安婦問題」について考えていまして、この本を読んで、いううちに皆様の一員になったような気がしました。

この本を読む以前にも「慰安婦問題」をはじめ、日本の戦争犯罪について興味をもっていました。きっかけは、梁石眠（ヤンソンギム）の「めぐりくる春」（金曜日）という慰安婦を題材にした小説を読んでからです。戦時中の日本軍は植民地下の若い女性たちを拉致、だまして慰安所へ連れて性暴力をふるって、むりやり日本人にさせた事実を知り、今北朝鮮拉致問題があるが、日本は北朝鮮よりもひどいことしていると思いました。私の個人的な意見ですが、北朝鮮拉致問題は、植民地時代の恨みで日本に復讐をしているのではないかと、シラキアオキ  
（花神） 思っていました。



北朝鮮拉致問題の被害者の皆様には全く落ち度はありません。日本政府に責任があると思います。この二つの問題を解決しようとしなないのが無責任さを感じます。

この本を読んで、実際に被害にあわれた李玉善ハルモニでは、毎日兵士たちに性暴力を受けていたのかと知り、涙が出てしまい、哀しくて胸がはりさけそうで痛い気持ちになりました。もし自分がそうだったら、生きてこらえることができるか...死んでしまうかと想像するだけで怖くなります。今日まで生きてこられたハルモニたちは、本当に強い方ですね。いつもハルモニたちのことを考えています。未来、夢、希望を戦争で奪われたハルモニたちのこれからの幸せを心から願っています。

最後に、遊就館のパンフレットの記事を読んでみて、日本の侵略戦争が正しかったこと、天皇を「神」として崇めることが書いてあるところがあまりにもおかしすぎる。神様は人を殺せ、レイプしろというのか。神様はそんなことは全く望んでいない。とても怒りを感じました。

これからも、歴史問題の事実を知り、若い世代の人たちに伝えていかなければなりません。石川康宏セミナーの皆様、ナムの家のハルモニたちを応援しています。

2011. 7. 3



シラネアオイ  
(蓬草)